別紙

令和５年度　学力向上プラン

学校名　　中央区立佃中　学校

学校の教育目標

・深く考え　実行する生徒　　・自ら学び　伸びていく生徒　　・励まし合い　助け合う生徒
・礼儀正しく　規律ある生徒　　・個性豊かで　たくましい生徒

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

未来をめざす生徒たちに「確かな学力」をつける
①「知徳体」校内研究を通した授業改善　・毎授業における学習目標と振り返り　・問題解決学習　・話し合い活動　・体験学習
②少人数授業の充実（教科部会）　③ICT（デジタル教科書）、学校図書の活用（朝読書）　④区講師の活用

令和５年度全国学力・学習状況調査および令和５年度「学習力サポートテスト」や令和４年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	・令和５年度「学習力サポートテスト」では、どの分野も全国平均を上回ったが、「我が国の言語文化に関する事項」「聞きとり」においては若干上回るか、学年によっては下回った。 ・定期考査等においても、知識・技能にあたる漢字の読み書き、語句の意味において結果が優れなかった。	・教材を読む際に語句の意味や読み方などの十分な確認ができなかった。 ・聞き取りの確認を行なったり、振り返りの時間を確保できなかったりした。
数　学	令和５年度全国学力・学習状況調査の結果で観点別に見ると、知識・技能の観点は本校の平均正答率が東京都・全国をともに上回っているが、思考・判断・表現の観点では東京都・全国ともに下回っている状況にある。このことから、本校の生徒は計算などの基本的な問題については、高い水準で理解することができているが、記述式の問題や応用問題などについては苦手としている生徒が多いと考えることができる。	基礎的な学力の定着は図れているが、未知の問題に対して個人で粘り強く取り組んだり、調べて考えたりする経験が不足しているから。
社　会	令和５年度学力サポートテストの結果では、１，２学年は概ね問題はないが、３学年の「日本の諸地域」と「江戸時代」に課題がある。また、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。また、定期考査や普段の学習においては、「知識・技能」に比べ、「思考力・判断力・表現力」の観点に課題が見られる。	・１，２学年時の学習内容の復習をする機会が少ない。 ・自分の考えをプリントに書き込んだりはしているが、それを共有したり修正する機会が少ない。
理　科	令和５年度学力サポートテストの結果では、全国平均とほぼ同程度で２年生は「植物の分類」と「動物の分類」の基礎力に課題がある。３年生は「日本の気象」に課題がある。また、観点別に見ると、「知識・技能」に課題が見られる。また、本校の定期考査等において計算問題の定着に課題が見られた。	十分な演習を取ることができず、基礎学力が定着しなかった。また、目的意識を持たせて実験に取り組ませ、考えさせながら活動させる必要があった。

英　語	令和５年度「学習力サポートテスト」では、どの学年においても総合的に見るとどの学年においても全国平均を上回ってはいる。しかし、応用・活用能力において、自治体平均で見ると、１年生において０．８％下回り、３年生において７％下回っている。 定期考査をみると、並びかえ問題や自己英作文が苦手な生徒が多い。	・文法事項説明時に十分振り返りの時間がとれなかった。 ・自己英作文など表現問題になると、語彙不足、文法を意識して記述問題に苦手意識をもつ生徒が多い。
保健体育	陸上競技全体において、課題が多く見られる。今年度は運動に親しむ生徒の全体数がやや減少傾向にあり、運動嫌いが目立つ。特に水泳などの有酸素系の運動への参加が著しく低かった。課題に関しては、自己発見が少なく、与えられたものをこなすようになっている。	活動時間を多くすると、話し合う時間が反対に少なくなる。一時間の中で、自身の課題がどこにあるのかを発見しにくい傾向にあった。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	・令和６年度「学習力サポートテスト」で、「我が国の言語文化に関する事項」「聞き取り」において、昨年度よりも高い割合で平均を上回るようにする。
	数学	・令和６年度「学習力サポートテスト」の全体の正答率が、令和５年度の結果を上回るようにする。
	社会	・令和６年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和５年度の各学年の結果を上回るようにする。
	理科	・令和６年度「学習力サポートテスト」の全体の正答率が、令和５年度の結果を上回るようにする。
	英語	・令和６年度「学習力サポートテスト」の全体の正答率が、令和５年度の結果を上回るようにする。
	保健体育	・学習カードやタブレットで、課題を見つけ記入する時間と、設定した自己課題に対しての取り組み方法を模索する必要性がある。個に応じた練習方法や場所を効率よくどのように設定するかがポイントになるかと思われる。
②授業改善		学校評価アンケート等において、「授業改善に努めているか」という項目が生徒・保護者ともに８５％を目標とする。
③家庭との連携		授業評価アンケート・学校評価アンケート・外部評価委員会等において、「授業や補習を工夫し、生徒の学力を高め、個性を伸ばしてくれているか」という項目等が８０％を目標とする。
④体力向上		導入運動として、投げる際には肩周りのストレッチや大胸筋などの筋トレなど、活動に応じたトレーニングメニューを10分弱ほど取り入れるようにしている。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	・語句の意味の確認をする時間、自ら考えて答えや意見をまとめる機会を増やす。 ・聞き取りの時間を設定する。
数学	少人数で授業を行い、区講師と連携して机間指導を行うことと、ＩＣＴ機器を有効活用することで、個に応じた指導を充実させる。
社会	・ふりかえりを共有、修正できる仕組みを構築する。 ・小テストを行い、知識の定着を図る。
理科	・知識の定着のために、授業の振り返りや小テストを行う。 ・目的意識を持たせ実験に取り組ませる。
英語	・語彙力、英作文力向上のために単語テストやディクテーションテストを行い、英文を書くことに自信を持たせる。
保健体育	・授業開始前に、自身の課題を発見して、記入する時間や学習カードの記入の仕方を工夫する。
②授業改善	
取組Ⅰ	・学習の手引き、生徒による授業評価アンケート、通知表、教科面談、学習力サポートテスト、学力向上プラン、校内研修を活用したＰＤＣＡサイクルを実践する。
取組Ⅱ	・校内研究を通じて、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）をバランスよく育てる授業改善に努めると共に、管理職による授業観察、及び指導・助言を行う。
取組Ⅲ	・教育会や外部における各研修会、また校内研修で授業改善策の考案やその共有などを図る。
③家庭との連携	
取組Ⅰ	三者面談において、各教科の提出物の提出状況や実施状況などを確認する。また、希望者を対象に教科面談を実施。また状況に応じた個別面談や家庭訪問を行う。
取組Ⅱ	毎日の生活記録、定期考査前の学習計画表の活用、ノート提出などの点検活動、各教科からの課題等により家庭学習の習慣化や質の向上を図り、自発的な学習習慣を身に付けさせる。学校評価アンケートにより検証する。
取組Ⅲ	月１回の学校だより、毎週末の学年だよりを通しての情報提供および啓発を行う。
④体力向上	
取組Ⅰ	もも上げや、走る動作の確認をすることや、大きな筋肉を使う動作などを取り入れ、活動に適した補強運動が展開できるように内容を精査する。
取組Ⅱ	活動後に何が課題だったのかを振り返り、その足りていない運動能力に対しての取り組みができるように自己課題解決を目指していく。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	保健体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			